

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

この部分は、
著作権の関係で
掲載できません。

受験番号

--

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

この部分は、
著作権の関係で
掲載できません。

受験番号

受験番号

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十点)

今は昔、池のほとりに蛙かえるのあまた集りて言ふやう、「あはれ生きとし生けるものの中に、人ひとはどうらやましきものはなし。われら、いかなればかかる生をうけて、手足をば備へながら、水を泳ぐを能あたとして、陸にありがりてはつくばひおり、行く時も心のままに走り行くことかなはず、ただひよくひよくと跳ぶばかりにて早はや為なもならず。いかにもして人のごとく立ちて行くならば良かるべし。いざや観音に願をかけて、立つことを祈らむ」とて、観音堂に参りて、「願はくはわれらをあはれみ給たまひ、せめてAの身なりとも、Bのごとくに立ちて行くやうに守らせ給へ」と祈りける。まことの心ざしをあはれとおぼしめしけん、そのまま後の足にて立ちあがりけり。「所願成就したり」と喜びて池に帰り、「さらばつれだちて歩いて見ん」とて陸に立ちならば、後足にて立ちて行けば、目が後になり一足も向むかへ行かれず。先も見えねば危なき言ふばかりなし。「これにては何の用にも立たず。ただ元のごとく這はせて給はれ」と祈りなほし侍りと言へり。世間の人これらのたぐひに似たる事多し。とかく身のほどを知らざる故に、君を恨み世をかこつ者みなかくのごとし。蛙はおのれ鳥獣ちようじゆにだにもあらず、虫の類たぐひにして、人をうらやみ、立ちて行かんとすれども、生まれつき人に似ず、Cのつき所の悪しければ、立ちて行くべきものにあらずと、身のほどを知らざる故なり。

- ※1 生きとし生けるもの：生きていてるすべてのもの
- ※2 いかねればかかる生をうけて：どうしてこのように生まれて
- ※3 能：できること
- ※4 つくばひおり：はいつくばつていて
- ※5 ひよくひよく：びよんびよん
- ※6 早為：素早い動作
- ※7 いざや観音に願をかけて：さあ観音(世の人の願いをかなえてくれる仏)にお願いして
- ※8 あはれとおぼしめしけん：気の毒とお思いになつたのだから
- ※9 所願成就：願いがかなうこと
- ※10 向：前の方
- ※11 言ふばかりなし：言いようがないほどだ
- ※12 祈り直しました
- ※13 君：自分が仕えている主人
- ※14 鳥獣にだにもあらず：鳥獣でさえなく
- ※15 世をかこつ：世間が自分を認めてくれないとぐちをこぼす
- ※16 かくのごとし：このようだ
- ※17 鳥獣にだにもあらず：鳥獣でさえなく

問1 線部Ⅰ「あはれみ」Ⅱ「立ちあがり」の主語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 蛙 イ 人 ウ 観音 エ 君
- | |
|----|
| I |
| II |

問2 本文を内容から二段落に分けるとすれば、どこで分けられるか。後段の最初の五字を文中から抜き出さない。

問3 線部①「人はどうらやましきものはなし」とあるが、蛙は人間のどういうところをうらやましいと思つているのか。十五字以内で答えなさい。

問4 A C を補うのに、最も適当な語を文中からそれぞれ一語で抜き出さない。

A
B
C

問5 線部②「さらばつれだちて歩いて見ん」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア しかたないので、仲間同士で誰が速いか競争してみよう イ 今はまだ、勝手に歩いてはいけない
- ウ そうはいっても、みんな歩くなど無理にちがいない エ それならば、一緒に歩いてみよう

問6 線部③「ただ元のごとく這はせて給はれ」とは「どうか元のように這わせて下さい」という意味である。このように言う理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 実際に歩いてみると、水の中を泳ぐ方が速く移動できたから。
- イ 仲間は歩けないのに、自分だけが陸を歩いてもつまらないから。
- ウ 後ろ足で立つと、前を見ることができず危険で歩けなかったから。
- エ 後ろ足で立つてみたら、予想以上に疲れて動けなくなったから。

問7 本文に述べられている「世間の人」と「蛙」に共通する欠点は何か。解答欄に合うように文中から九字で抜き出さない。

問8 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 懸命に祈る蛙を気の毒に思った観音は、蛙の願いを聞いてあげた。
- イ 願いがかなったことを喜んだ蛙は、観音堂へお礼を言いに行った。
- ウ 自分を鳥獣だと思い込んだ蛙は、陸に上がって歩くことに挑戦した。
- エ あれこれと願う蛙に腹を立てた観音は、蛙を元の姿に戻した。

--